

個別懇談を有意義なものにするために

朝夕の冷え込みに冬の訪れが近いことが感じられるこの頃となりました。来週からは個別懇談も始まります。個別懇談を有意義なものにするためのちょっとした心構えについて考えてみました。

1 話し合いでは

「先生どうですか、うちの子の学校での様子は。勉強は分かっていますか。友だちとは仲良く出来ていますか。」

(保護者の皆さんにとってお子さんの勉強や友だち関係は大変気になることでしょう)と、尋ねられたとき、担任はなるべく具体的な事柄を上げながら、お子さんの様子をお話しよう、とします。この時、お子さんの良い点を話す場合は問題ないのですが、どんなに良い子にも「こんな点が気になる」「こんな点を直せたら」という所はあるものです。そのような事柄をお話しするときは、大変気を遣います。なぜなら、どんなに人格的に優れた人でも、わが子のマイナス面を指摘されると、心穏やかでは居られなくなるからです。そのようなことを担任は承知していますから、このような場合(マイナス面を指摘する場合)ことばを選び、婉曲(えんきょく)に話すことも多くなります。その時、

「そうですね。今、先生がお話されたことは家でも時々見られるので私も心配しているのですが。」

と、相槌をうちながら受け入れていただける場合と、

「そうですか。家ではそんな様子は見えないのですが。」

と、否定的に対応される場合があります。

前者の場合は、担任は自分の見方が分かってもらえた、保護者の方も同じような見方をしている、と感じ両者の間に親和的、共感的な雰囲気広がります。その後の話し合いもスムーズに進み、そこから、お子さんを更に伸ばすための具体的な手掛かりや方法が見つかるかもしれません。そのような方法が見つからなくても、保護者と担任の間に相互理解が深まります。そのことだけでも有意義な懇談会になったといえます。

後者の場合はどうでしょう。担任は保護者との間に児童(お子さん)の見方について違いを感じます。それでも担任は、お子さんの学校での様子について話をします。しかし、最初にお子さんの行動に対する見方の違いを感じていますから、10の話をしようとしていても、3とか4に止(とど)めて話をすることになります。すると話の内容は核心に触れず、当り障りの無い表面的な話に終始することになる場合もあります。その結果、せつかくの懇談があまり有意義なものにならないこともあります。

確かに、一度の話合いで担任と保護者が分かりあえ、お子さんの指導について共通理解を持つことが出来る程、簡単なものではありません。しかし、せつかくの機会です。その時間を有意義なものに出来るようお互い努めたいものです。懇談の目的はお子さんを家庭と学校で力を合わせ更に伸ばしていくことにあるのですから。

ですからこのような時、話し合いのコツとしては、担任の指摘に対して、「そんな様子はないと思うが」と内心思っても、子どもは家庭と学校では様子が違うものですから、担任の見方を受け入れ、次のことばを言いやすくするのが良い方法だと思います。

2 話し合いの後、懇談の様子をわが子にどのように伝えたら良いのでしょうか。

個別懇談が終わり家路につきました。保護者のみなさんはどのようにお子さんに今

日のことを伝えますか。次のどれでしょう。

- ①今日の懇談会では、担任の先生から子どもの良い所を一杯誉めてもらった。帰ったら私は〇〇(子どもの名前)を一杯誉めてあげよう。
- ②今日の懇談会では、担任の先生から子どもの良い所を一杯誉めてもらった。学校生活を心配なく送っているようなので一安心。うちの子は誉めると調子に乗るので、子どもには何も言わず先生の「誉めことば」は私へのご褒美と考え自分の心にしまっておこう。
- ③今日の懇談会では、担任の先生から子どもの直した方が良い点、問題点を幾つか指摘された。非常にながかりするとともに腹が立った。今日はもう厳しく叱りつけてやろう。
- ④今日の懇談会では、担任の先生から子どもの直したらよい点を幾つか指摘された。そのような点は確かに見られる。どのように直していったらよいか、今日は子どもとゆっくり話し合ってみよう。
- ⑤今日の懇談会で、担任の先生から子どもの直したらよい点を幾つか指摘された。でも良い点も話してもらった。今日は、良い点だけを子どもには話してみよう。

これ以外にも方法があるかと思いますが、どれが一番良いか答える前に、保護者の皆さんが子どもだったらどうしてもらいたいのか考えてみましょう。お子さんは、子ども心にも、「お母さん(お父さん)は先生とどんな話をしたのかな。聞きたいな。」そんな気持ちを持っていることでしょう。ですから、ぜひ、担任の先生との懇談内容を伝えていただきたいと思います。その時、次のようなことを考えながらお子さんに話すといいでしょう。

○このことは、子どもに伝えた方が良いことだな。

○このことは、私(保護者)が心に留めておけば良いことだな。

一度、保護者の方の心のフィルターを通してお子さんに伝えることで、一層教育的効果が期待できるようになります。例えば、

□担任の先生はこんな内容を話してくれた。その内容を、私は少し違うことばで子どもに伝えよう。

と、自分で消化し、演出し伝えるのも一つの方法です。今、先生から聞いたお子さんの学校生活での頑張りや良いことを次のように伝えたとします。

(例)「〇〇は、この前、学校でこんな良いことをしたそうだね。先生がとても感心していたよ。先生の話聞き、お母さん(お父さん)まで嬉しくなったよ。」

すると、子ども心にも嬉しく思うものです。その嬉しさは次のようなものだと思います。

①1つは、お母さん(お父さん)に誉められた喜びです。

- ・お母さんは私が誉められたことを自分のことのように喜んでくれた。良かったな。よし、私はもっとお母さん(お父さん)を喜ばせるように頑張るぞ。

②2つ目は担任に対する信頼の深まりです。

- ・私はこの前、先生にずいぶん叱られ落ち込んだ。けど先生は、私の良さをちゃんと見ていたんだ。嬉しいな、良かったな。先生は厳しいけど、優しい面も持った本当に良い先生なんだ。よし、もっと先生に良い所を見てもらえるように頑張るぞ。

3 あとがき

そんなにうまくいくものかな、と疑問に感じる方も多いと思います。確かに、私が担任をしていた頃とは担任の先生方の考え方や保護者の方々の受け取り方も違うと思います。ただ、せっかくの個別懇談という機会です。お子さんの良さを伸ばす機会、親子の絆を深める機会、担任の先生との信頼関係を深める機会になれば、と考え知恵を絞ってみました。少しでもお役に立てば幸いです。